

現代文 100字要約ドリル 標準編〈第4版〉

手引き

【問題編】

◆本書の構成

このドリルは、文章の〈要約〉力をつけるために編まれた、記述トレーニング用の問題集です。問題文はすべて一〇〇字以内で要約してください。

各問題の冒頭に、難易度の目安・制限時間を表示しました。

難易度レベル ★☆☆…基本

★★☆…標準

★★★…上級

問題用紙の裏側には草稿用紙を付けました。下書きその他、自由に使用してください。裏の左側には問題文の続きが印刷されています。続きを読むにあたっては、右側を必要なだけ折り曲げてください。用紙全体を裏返さずに要約文が書けます。

なお、①～⑩の上部の囲み数字(①・②...)は段落番号を、⑪～⑯の上部の数字は行数を表します。

別冊の〈解答・解説編〉には、問題文を再掲して文章構成等を図解しました。また〈論旨の構造／場面の展開／着眼点〉、〈要約へのアプローチ〉、〈解答例・配点〉を掲げ、読解における着眼点をチェックするとともに、自分でも答案を採点できるようにしてあります。担当の先生に採点していただくのがベストですが、やむを得ず自分で行う場合は、〈要約へのアプローチ〉の中に記した採点基準や、〈解答例・配点〉に掲げた部分点を十分参考にしてください。

さらに、著者のプロフィールや著書も紹介してありますので、ここを手がかりに学習の幅を広げてほしいと思います。

ここに収められた三十題に取り組むことで、文章読解力と記述表現力を養い、生き生きと学習していかれることを願ってやみません。

◆本書の使い方

原則、担当の先生の指示に従って使用してください。

なお、自習としてこの教材を使う場合は、以下の要領で取り組んでください。

① まず、〈問題編〉の冒頭に示した〈制限時間〉内で、全文の〈要約〉に挑戦してください。

② 次に、同じ問題について、時間を気にせず、というよりもたっぷりと時間をかけて、〈この文章はこういうことを言っていたのか〉と、

自分で納得できるまで読み込んでください。そして、自分の〈要約〉が十分なものであったかどうか、考え方直してみましょう。不十分だと感じたら、推敲してみてください。

——これは、本文の主張を〈きちんと考へて、とらえる〉ための

目次

◆本書の構成

◆本書の使い方

◆要約についての考え方

◆論説編

1 思考の整理学	外山滋比古	1
2 知的複眼思考法	刈谷剛彦	3
3 「私」のための現代思想	高田明典	5
4 グーグルマップの社会学	松岡慧祐	7
5 日本人の死生観	立川昭二	9
6 森林からのニッポン再生	田中淳夫	11
7 世界のイメージ	國分功一郎	13
8 文化について	小林秀雄	15
9 現代の倫理と倫理的感受性について 山崎正和	17	17
10 「じぶん探し」について考える 小林秀樹	19	19
11 政治的思考 杉田敦	21	21
12 日本国年功制を生かせ 高橋伸夫	23	23
13 「みつともない」と日本人 榎本博明	25	25
14 物語の哲学 野家啓一	27	27
15 「しきり」の文化論 柏木博	29	29
16 メディア文化論 吉見俊哉	31	31
17 まなざしのデザイン 岩田靖夫	33	33
18 神の痕跡 鶴田清一	35	35
19 じぶん・この不思議な存在 河野哲也	37	37
20 〈心〉はからだの外にある 堀辰雄	39	39
21 絵画の二十世紀 前田英樹	41	41
22 日本文化 モダン・ラプソディ 渡辺裕	43	43
23 戦争論 西谷修	45	45
〈小説〉編		
24 胡桃割り 永井龍男	47	47
25 裸の王様 開高健	49	49
26 風立ちぬ 堀辰雄	51	51
27 暮り日の行進 林京子	53	53
28 黄金風景 太宰治	55	55
〔資料の読み取り〕編		
29 やさしい日本語	57	57
30 言葉遣いに対する印象	59	59

練習です。①と②とを繰り返すうちに、二つの力が結びつき、「速く、きちんと、文章内容がとらえられる」ようになります。

③ 最後に、〈解答・解説編〉を見て、〈論旨の構造／場面の展開／着眼点／〈要約へのアプローチ〉を参考に、自分の読解のあり方を確認するとともに、答案を探点・添削（10点満点）してみましょう。

——これは、〈自分の答案を添削する力を養う〉ための練習です。よりよい答案を書く力とは、試験時間内で自分の答案を添削し推敲できる力なのですから、この練習を繰り返すことが大切です。そのことで、読解力・記述力は確実に深化していきます。

▽ わからない言葉は、そのつど覚えていくようにしましょう。また、しばらく日をおいて、もう一度同じ手順でやり直してみるのが効果的です。前に読んだときと比べて、確実に読解力が深まっていることを実感できるはずです。

——各問題の本文は、さまざまなジャンルから成っています。繰り返し読むことで、テーマ・主題についての理解を深めることも、意義のある復習となるでしょう。

◆要約についての考え方

〈要約〉とは、「文章や話の重要な内容を選びとつて、短くまとめること」を意味します。

そして、〈要約〉には、「大意の要約」「要旨（主旨および趣旨）の要約」、それと関連する「題名の提示」といった種類があります。図示すると下記のような関係になります。

論旨とは「論述されている内容およびその筋みち」を意味し、それは問題文の下段に「論旨の構造」として示してあります。要旨はその「論旨」の中の「要となる内容」を指し、本書ではその把握の練習をします。したがって、まずは、

① 筆者が、〈何について＝話題、問題〉はどう述べているか＝意見、主張という核になる部分を読み取ろうと、強く意識して読んでいかなければなりません。

と同時に、筆者は、思いついたことを思いついたままにただ書き連ねてあるわけではありませんから、

② 筆者が、①について述べるにあたって、「どのように話の筋つまり論理を展開させていているのか」ということにも自觉的になる必要があります。

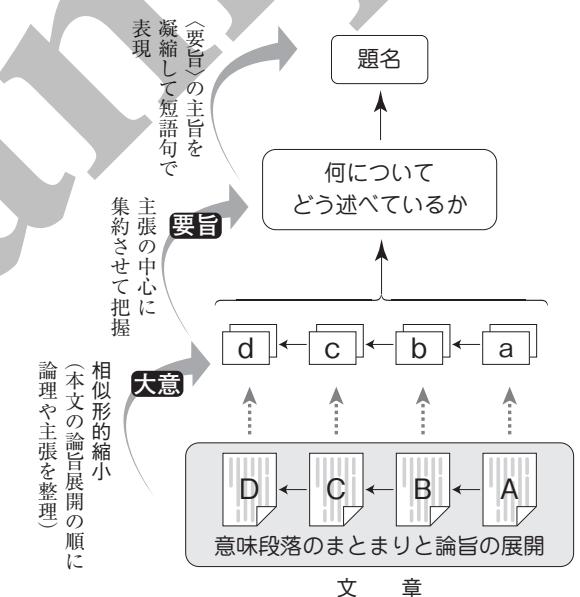
つまりは、①「筆者のイイタイコト」と②「論旨展開の構造」という、この二点の把握が重要だということです。

入試現代文の問題文のほとんどは、長い文章の中のある特定の「まとまりのある一部分」を抜いて作られています。したがってそこには、〈序論・本論・結論〉（起・承・転・結）といった構成が見える場合もあり、それも〈要約〉の手がかりになるでしょう。

しかし、全ての文章がそうした定まった構成をとるとは限ませんので、右の①と②の把握が最重要となるわけです。

小説の場合は、場面のまとまりを意識しながら、その展開を押さえ、「ストーリー・あらすじ」をとらえるとともに、話の山場となる「心情」を把握し、〈あらすじ〉+〈テーマ（主題）＝訴えていることの中心〉という形で、どんな話なのかが明確になるよう、まとめていきましょう。

資料の読み取りの場合は、まずは①「顕著な傾向として表れている事柄に注目」し、②「細部に表れている事柄にも着目」していくという順序でデータを整理していきましょう。〈考え方〉を要求されているときは、データから客観的に読み取れる範囲で普遍妥当的な意見を添えていきましょう。



「私」の婚約者「節子」は、肺の伝染性の慢性疾患で、死に至る病とされていた結核を患っている。「私は『節子』に付き添つて療養所で生活していた。

初夏の夕暮がほんの一瞬時生じさせている一帯の景色は、すべてはいつも見馴れた道具立てながら、恐らく今を描いてはこれほどの溢れるような幸福の感じをもつて私達自身にすら眺め得られないだろうことを考えていた。そしてずっと後になって、いつかこの美しい夕暮が私の心に蘇つて来るようなことがあつたら、私はこれに私達の幸福そのものの完全な絵を見出すみいだだろうと夢みていた。

「何をそんなに考えているの?」私の背後から節子がとうとう口を切つた。
「私達がずっと後になつてね、今の私達の生活を思い出すようなことがあつたら、それがどんなに美しいだろうと思つていたんだ」

「本当にそつかも知れないわね」彼女はそう私に同意するのがさも愉快なように応じた。

それからまた私達はしばらく無言のまま、再び同じ風景に見入つていた。が、そのうちに私は不意になんだか、こうやつてうつとりとそれに見入つているのが自分であるような自分でないような、変に茫漠とした、取りとめのない、そしてそれがなんとなく苦しいような感じざえして來た。そのとき私は自分の背後で深い息のようなものを聞いたような気がした。が、それがまた自分のだつたような気もされた。私はそれを確かめでもするように、彼女の方を振り向いた。

「そんなにいまの……」そういう私をじつと見返しながら、彼女はすこし嘆息した。が、それを言いかけたなり、すこし躊躇っていたようだつたが、それから急にいままでとは異つた打棄るような調子で、「そんなにいつまでも生きていられたらいいわね」と言い足した。

「また、そんなことを!」

私はいかにも焦れつたように小さく叫んだ。

「『免めんなさい』」彼女はそう短く答えながら私から顔をそむけた。

いましがたまでの何か自分にも訣の分からぬような気分が私にはだんだん一種の苛立しさに変わり出したよう見えた。私はそれからもう一度山の方へ目をやつたが、その時は既にもうその風景の上に一瞬間生じていた異様な美しさは消え失せていた。

その晩、私が隣りの側室へ寝に行こうとした時、彼女は私を呼び止めた。

「さつきはご免なさいね」

「もういいんだよ」

「私ね、あのとき他のことを言おうとしていたんだけれど……つい、あんなことを言つてしまつたの」

「じゃ、あのとき何を言おうとしたんだい?」

「……あなたはいつか自然なんぞが本当に美しいと思えるのは死んで行こうとする者の眼にだけだとおつしゃつたことがあるでしょう。……私、あのときね、それを思い出したの。なんだかあのときの美しさがそんな風に思われて」そう言いながら、彼女は私の顔を何か訴えたいように見つめた。

その言葉に胸を衝かれでもしたよう、私は思わず目を伏せた。そのとき、突然、私の頭の中を一つの思想がよぎった。そしてさつきから私を苛ら苛らさせていた、何か不確かなような気分が、ようやく私の裡うちではつきりとしたものになり出した。……「そうだ、おれはどうしてそいつに気がつかなかつたのだろう？」あのとき自然なんぞをあんなに美しいと思つたのはおれじゃないのだ。それはおれ達だつたのだ。まあ言つてみれば、節子の魂がおれの眼を通して、そしてただおれの流儀で、夢みていただけなのだ。……それだのに

「 節子が自分の最期の瞬間のことと夢みているとも知らなして
われはわれて 勝手におれ達の長生きした時
のことなんぞ考えていたなんて……」

40
いつしかそんな考えをとつおいつし出して、いた私が、やつと目を上げるまで、彼女はさつきと同じようになじつと見つめていた。私はその目を避けるよつな恰好をしながら、彼女の上にかがみかけて、その額にそつと接吻した。私は心から羞かしかつた。……

45 とうとう真夏になつた。それは平地でよりも、もつと猛烈な位であつた。裏の雑木林では、何かが燃え出しどもしたかのように、蟬が^(注1)ひねもす^{せな}啼き止まなかつた。樹脂のにおいさえ、開け放した窓から漂つて来た。夕方になると、戸外で少しでも葉な呼吸をするために、^(注2)バルコンまでベッドを引き出させる患者達が多くつた。それらの患者達を見て、私達ははじめて、この頃俄かに^(注3)サナトリウムの患者達の増え出したことを知つた。しかし、私達は相かわらず誰にも構わずに二人だけの生活を続けていた。

この頃、節子は暑さのためにすこり食欲を失い、夜などもよく寝られないことが多いらしかった。私は彼女の昼寝を守るために、前よりも一層、廊下の足音や、窓から飛びこんでくる蜂や虻あぶなどに気を配り出した。そして暑さのために思わず大きくなる私自身の呼吸にも気をもんだりした。

その、少し大人の格好で、思ひつかからず彼女の目についているのを見守っていました。私は、彼女の眠りに近いものだつた。私は彼女が眠りながら呼吸を速くしたり弛くしたりする変化を苦しいほどはつきりと感じるのだった。私は彼女と心臓の鼓動をさえ共にした。ときどき軽い呼吸困難が彼女を襲うらしかつた。そんな時、手をすこし痙攣させながら咽のところまで持つて行つてそれを抑えるような手つきをする——夢におそわれてでもいるのではないかと思つて、私が起こしてやつたものかどうかと躊躇つてゐるうちに、そんな苦しげな状態はやがて過ぎ、あとに弛緩状態がやつて來る。そうすると、私も思わずほつとしながら、いまの彼女の息づいている静かな呼吸に自分までが一種の快感さえ覚える。——そうして彼女が目を醒ますと、私はそつと彼女の髪に接吻をしてやる。彼女はまだ倦怠な目つきで、私を見るのだった。

「ああ、僕もここで少しうつらうつらしていたし

そんな晩など、自分もいつまでも寝つかれずいろいろなことがあると、私はそれが躊躇にでもなつたよう

60 に、自分でも知らずに手を喉に近づけながらそれを抑えるような手つきを真似たりしている。そしてそ

れに気がついたあとで、それからやつと私は本当の呼吸困難を感じたりする。が、それは私にはむしろ快

(注1) ひねもす——朝から夕まで。一日中。
(注2) バルコン——バルコニー。

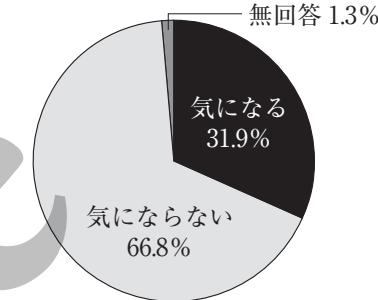
60 に、自分でも知らずに、手を咽に近づけながらそれを抑えるような手(

(注3) サナトリウム——高原、海辺、林間などに設けられた転地療養所。おもに結核患者の療養所をいう。

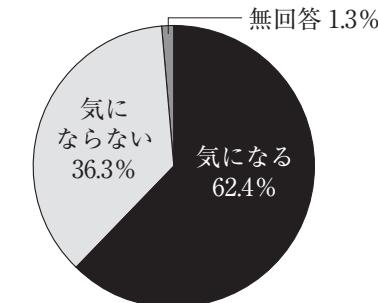
次の【資料】は、文化庁が行つた「国語に関する世論調査」の結果をまとめたものである。国語の授業で、この【資料】から読み取つたことをもとに「コミュニケーションを図るときに気をつけること」と「について一人一人自分の考えを文章にまとめる」とことなつた。【資料】から読み取つた内容を明示し、それをもとにあなたの考えを全部で一〇〇字以内でまとめなさい。なお、解答にA、Bを使用して構わない。

① 全体

A 「すぐ帰る」を
「そっこう帰る」と言う

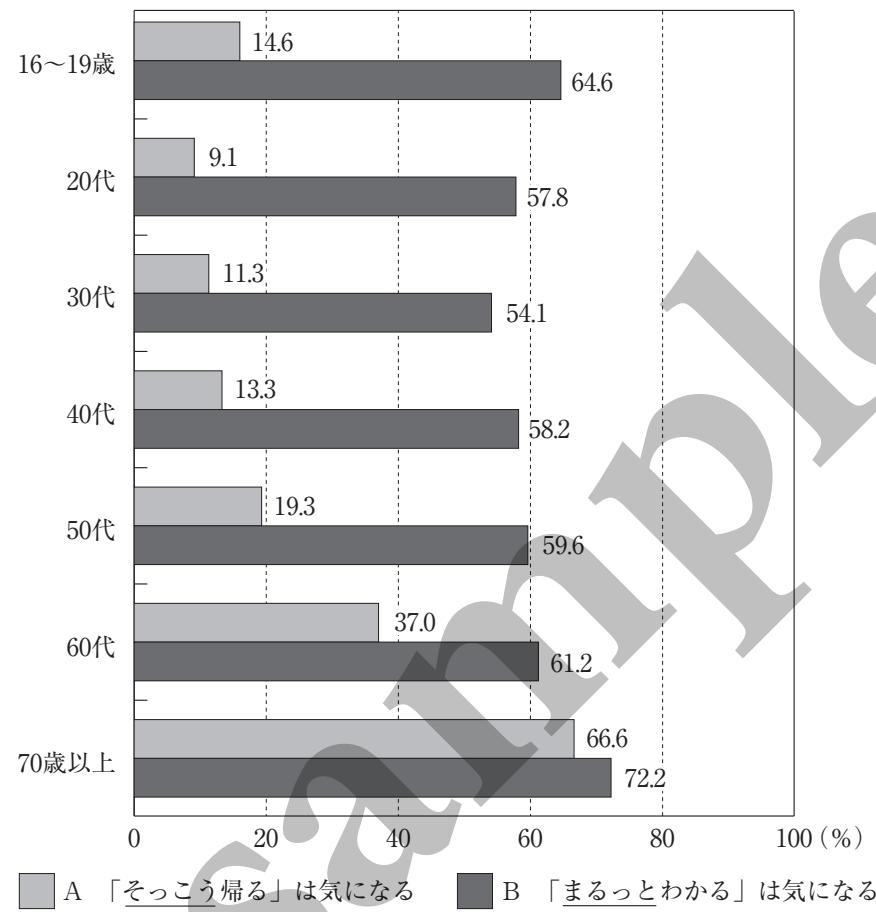


B 「そっくり全部わかる」を
「まるっとわかる」と言う



【資料】 下線部の言い方をほかの人が使うのが気になりますか、それとも気になりませんか。

② 年代別の「気になる」を選択した人の割合



(文化庁「令和2年度「国語に関する世論調査」の結果の概要」から作成)

「私」の婚約者「節子」は、肺の伝染性の慢性疾患で、死に至る病とされていた結核を患っている。「私は『節子』に付き添つて療養所で生活していた。

初夏の夕暮がほんの一瞬時生じさせている一帯の景色は、すべてはいつも見馴れた道具立てながら、恐らく今を措いてはこれほど溢れるような幸福の感じをもつて私達自身にすら眺め得られないだらうことを考えていた。そしてずっと後になって、いつかこの美しい夕暮が私の心に蘇つて来るようなことがあつたら、私はこれに私達の幸福そのものの完全な絵を見出だらうと夢みていた。

5 「何をそんなに考えているの？」私の背後から節子がとうとう口を切つた。
「私達がずっと後になつてね、今の私達の生活を思い出すようなことがあつたら、それがどんなに美しいだろうと思つていたんだ」

「本当にそうかも知れないわね」彼女はそう私に同意するのがさも嬉しいかのように応じた。

それからまた私達はしばらく無言のまま、再び同じ風景に見入つていた。が、そのうちに私は不意になんか、こうやつてうつとりとそれに見入つてゐるのが自分であるような自分でないような、変に茫然とした、取りとめのない、そしてそれがなんとなく苦しいような感じさえして來た。そのとき私は自分の背後で深い息のようなものを見たような気がした。が、それがまた自分のだつたような気もされた。私はそれを確かめでもするように、彼の方を振り向いた。

「そんなにいまの……」そういう私をじつと見返しながら、彼女はすこし嗄れた声で言いかけた。が、それを使いかけたなり、すこし躊躇つていたようだつたが、それから急にいままでとは異つた打棄るような調子で、「そんなにいつまでも生きていらねばいいわね」と言い足した。

「また、そんなことを！」
私はいかにも焦れつたいように小さく叫んだ。

「ご免なさい」彼女はそう短く答へながら私から顔をそむけた。

20 いましがたまでの何か自分にも訣の分からぬような気分が私にはだんだん一種の苛立しさに変わり出したように見えた。私はそれからもう一度山の方へ目をやつたが、その時は既にもうその風景の上に一瞬間生じていた異様な美しさは消え失せていた。

「また、そんなことを！」
私はいかにも焦れつたいように小さく叫んだ。

「そこには一瞬間生じていた異様な美しさは消え失せていたよ」

25 「まだ、そんなことを！」
私はいかにも焦れつたいように小さく叫んだ。

「さつきはご免なさいね」「もういいんだよ」

「私の、あのとき他のことを言おうとしていたただれど……つい、あんなことを言つてしまつたの」「じゃ、あのとき何を言おうとしたんだい？」

「……あなたはいつか自然なんぞが本当に美しいと思えるのは死んで行こうとする者の眼にだけだとおつしやつたことがあるでしょう。……私、あのときね、それを思い出したの。なんだかあのときの美しさがそ

30 んな風に思われて」そう言いながら、彼女は私の顔を何か訴えたいように見つめた。

その言葉に胸を衝かれでもしたように、私は思わず目を伏せた。そのとき、突然、私の頭の中を一つの思想がよぎつた。そしてさつきから私を苛ら苛らせていた、何か不確かなような気分が、ようやく私の裡ではっきりとしたものになり出した。……「そうだ、おれはどうしてそいつに気がつかなかつたのだろう？ あの

35 れば、節子の魂がおれの眼を通して、そしてただおれの流儀で、夢みていただけなのだ。……それで、節子が自分の最期の瞬間のことを夢みているとも知らないで、おれはおれで、勝手におれ達の長生きしたことなど考えていたなんて……」

いつしかそんな考えをとつおいつし出していた私が、やつと目を上げるまで、彼女はさつきと同じように私をじつと見つめていた。私はその目を避けるような恰好をしながら、彼女の上にかがみかけて、その額にそつと接吻した。私は心から羞かしかつた。……

36 どうとう真夏になつた。それは平地でよりも、もっと猛烈な位であった。裏の雑木林では、何かが燃え出

しでもしたかのよう、蟬がひねもす啼き止まなかつた。樹脂のにおいさえ、開け放した窓から漂つて

＜その晩の出来事（前段での齟齬の種明かし）＞

＜初夏の夕暮の出来事（二人の間の齟齬）＞

場面2 その晩の出来事（前段での齟齬の種明かし）（23～40行目）

「あのとき自然なんぞをあんなに美しいと思つたのはおれじゃない：おれ達だつた：節子の魂がおれの眼を通して、そしてただおれの流儀で、夢みていただけなのだ。それで、節子が自分の最期の瞬間のことを夢みているとも知らないで、おれはおれで、勝手におれ達の長生きした時のことなどを考えていた……」

私は心から羞かしかつた

場面の展開

場面1 初夏の夕暮の出来事（二人の間の齟齬）（～22行目）

初夏の夕暮

これほどの溢れるような幸福の感じずっと後になつて、いつかこの美しい夕暮が私の心に蘇つて来るようなことがあつたら、私はこれに私達の幸福そのものの完全な絵を見出だらう

「私達がずっと後になつてね、今の私達の生活を思い出すようなことがあつたら、それがどんなに美しいだらう……」

彼女は：私に同意するのがさも嬉しいかのように応じた

私は：変に茫然とした、取りとめのない：なんとなく苦しいような感じさえして來た背後で深い息のようなもの：それがまた自分がだつたような気もされた

彼女は：私に同意するのがさも嬉しいだらう

「私達がずっと後になつてね、今の私達の生活を思い出すようなことがあつたら、それがどんなに美しいだらう……」

私は：変に茫然とした、取りとめのない：なんとなく苦しいような感じさえして來た

背後で深い息のようるもの：それがまた自分がだつたような気もされた

彼女は：私に同意するのがさも嬉しいだらう

「まだ、そんなことを！」

私は：いかにも焦れつたいように小さく叫んだ

「そこには一瞬間生じていた異様な美しさは消え失せていたよ」

「まだ、そんなことを！」

私は：いかにも焦れつたいように小さく叫んだ

「さつきはご免なさいね」「もういいんだよ」

「私の、あのとき他のことを言おうとしていたただれど……つい、あんなことを言つてしまつたの」「じゃ、あのとき何を言おうとしたんだい？」

「……あなたはいつか自然なんぞが本当に美しいと思われるは死んで行こうとする者の眼にだけだとおつしやつたことがあるでしょう。……私、あのときね、それを思い出したの。なんだかあのときの美しさがそ

30 んな風に思われて」そう言いながら、彼女は私の顔を何か訴えたいように見つめた。

その言葉に胸を衝かれでもしたように、私は思わず目を伏せた

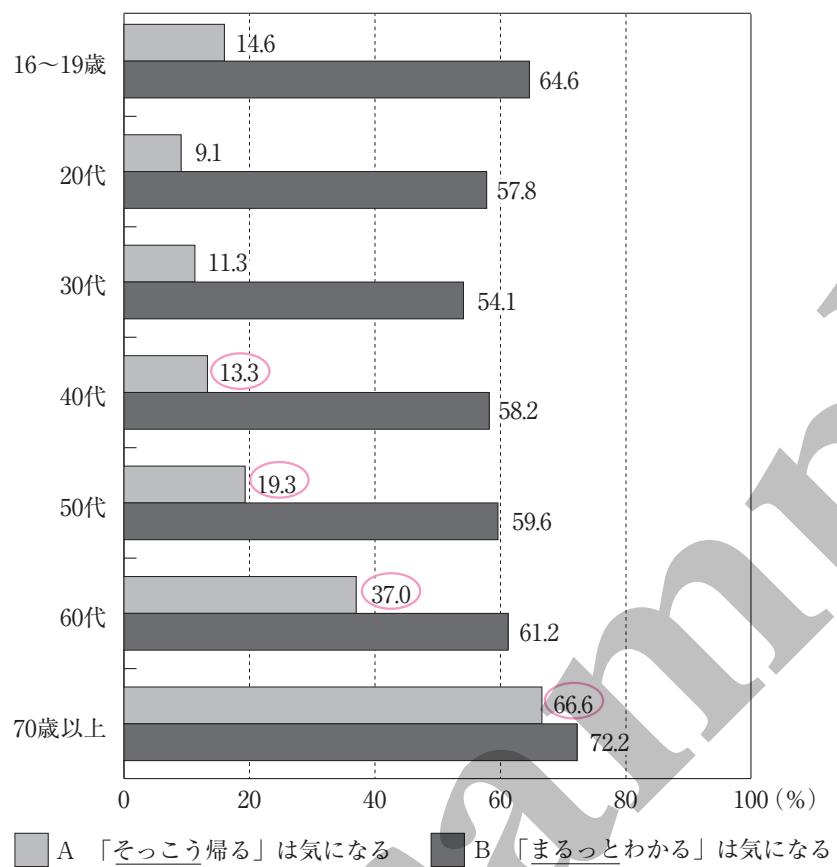
35 「あのとき自然なんぞをあんなに美しいと思つたのはおれじゃない：おれ達だつた：節子の魂がおれの眼を通して、そしてただおれの流儀で、夢みていただけなのだ。それで、節子が自分の最期の瞬間のことを夢みているとも知らないで、おれはおれで、勝手におれ達の長生きした時のことをなどを考えていた……」

私は心から羞かしかつた

次の【資料】は、文化庁が行った「国語に関する世論調査」の結果をまとめたものである。国語の授業で、この【資料】から読み取ったことをもとに「コミュニケーションを図るときに気をつけること」について一人一人自分の考えを文章にまとめるとなつた。【資料】から読み取った内容を明示し、それをもとにあなたの考えを全部で100字以内でまとめなさい。なお、解答にA、Bを使用して構わない。

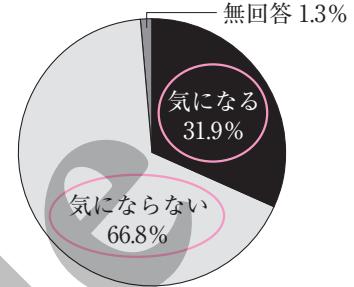
【資料】 下線部の言い方をほかの人が使うのが気になりますか、それとも気になりませんか。

② 年代別の「気になる」を選択した人の割合

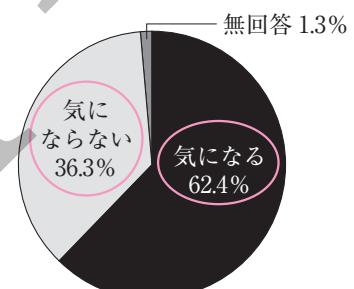


① 全体

A 「すぐ帰る」を
「そっこう帰る」と言う



B 「そっくり全部わかる」を
「まるっとわかる」と言う



(文化庁「令和2年度「国語に関する世論調査」の結果の概要」から作成)

- まずは前書きに注意しよう。前書きにはときに解答を考える上で手がかりとなる内容が書かれているので、きちんと読むことが大切である。ここで取り上げられている【資料】は、「国語に関する世論調査」の結果をまとめたものである。そのことを踏まえた上でグラフを読み取っていこう。
- (1) 図表が何に関するものであるのかを表題などを見て確認する
- (2) そこに表れている顕著な傾向に着目する
- (3) 必要に応じて細部から読み取れる事柄にも着目していく
- という3点も踏まえて考えていく。
- 前書きおよび(1)の観点から、
- ・【資料】①は、「下線部の言い方をほかの人が使うのが気になりますか」という世論調査の結果であり、項目はA「すぐ帰る」を「そっこう帰る」と言う」とB「そっくり全部わかる」を「まるっとわかる」と言う」の二つであること、
- ・【資料】②は、【資料】①の二項目に関する、「年代別の「気になる」を選択した人の割合」の世論調査の結果であること、
- を押さえよう。

設問文に【資料】から読み取った内容を明示し」とあるので、(2)と(3)の観点から、

- ・【資料】①から、Aに関しては、「気になる」人より「気にならない」人の方がかなり多いこと、逆にBに関しては、「気にならない」人より「気になる」人がかなり多いこと、
- ・【資料】②から、Bに関しては、どの年代の人も使用が気になること、Aに関しては、若い年代の人はあまり気にならないが、50代から60代、70代以上と年齢が高くなるほど使用が気になること、つまりは年代によって使用への違和感の程度が異なること、
- を読み取る。
- これらの内容を踏まえた上で、「コミュニケーションを図るときに気をつけること」について一人一人自分の考えを文章にまとめる」と求めている。
- 【資料】②から読み取れる内容を踏まえば、

要約へのアプローチ

意識に留意して、適切な言葉を選ぶことが大切である。	Bの使用にはどの年代も抵抗感を覚えるが、Aは年代に	*① 3点分
	より使用への違和感が異なる表現だと言える。どの年代に	*② 2点分
も受け入れ難い表現は避けつつ、年代で異なる表現への	・Aは、違和感を覚えない年代と「コミュニケーションを図る」ときには使つて構わないが、そうではない年代のときには使用するのを避け、別の表現にした方が良い	④ 2点分
	・Bはどの年代の人も違和感を覚えるので、「コミュニケーションを図る」ときには使用を避け、別の表現にした方が良い	④ 1点分

- が読み取れる。……a
- これらの中、【資料】②から読み取れる内容に着目すれば、
- ・Aは、違和感を覚えない年代と「コミュニケーションを図る」ときには使つて構わないが、そうではない年代のときには使用するのを避け、別の表現にした方が良い
 - ・Bはどの年代の人も違和感を覚えるので、「コミュニケーションを図る」ときには使用を避け、別の表現にした方が良い

*② 2点分

Bの使用にはどの年代も抵抗感を覚える……………2点

③ 3点分

④ 3点

【資料】から読み取った内容を明示」することが設問の要求であるので、その内容である①と②の方向性を欠くものは全体が0点となる。（＊は必須要素）

といふ考え方を導き出すことができる。この内容を一般化して捉え、「コミュニケーションを図るときに気をつけること」をまとめれば、どの年代も受け入れ難い表現は避けつつ、年代によって表現への意識が異なることに留意して、相手が違和感を覚えることのないよう適切に言葉を選ぶ必要がある……………b

といった方向のものが解答になる。
以上、a、bの内容を一〇〇字以内でまとめていくことになる。

*① Aは年代によって使用への違和感が異なる表現である

以上の考え方を導き出すことができる。この内容を一般化して捉え、「コミュニケーションを図るときに気をつけること」をまとめれば、どの年代でも抵抗感を覚える表現の使用は避ける

・表現に対する意識は年代によって異なっており、そのことに留意して、相手が違和感を覚えることのないよう、適切に言葉を選ぶ必要があるといった方向の解答になるだろう。

・Aは年代によって使用への違和感が異なるので、あまり違和感を覚えない年代と「コミュニケーションを図る」ときには使つて構わないが、そうでない年代とのときは使用するのを避け、別の表現にした方が良い

・Bはどの年代の人も違和感を覚えるので、「コミュニケーションを図る」ときには使用を避け、別の表現にした方が良い